

横浜トリエンナーレ組織委員会と横浜市立大学Minds1020Labが実証実験 「アートが心にもたらす効果」を検証

—2024年5月17日～19日横浜トリエンナーレにて実証実験&協力者を募集—

横浜トリエンナーレ組織委員会と、横浜市立大学 研究・産学連携推進センター 宮崎智之教授（学長補佐）が代表を務めるMinds1020Lab^{※1}（マインズテントゥエンティラボ）は、2024年3月より開催する第8回横浜トリエンナーレ^{※2}において、「アート鑑賞が心にもたらす効果」を検証する実証実験を実施するにあたり、実証実験のモニターを2024年2月29日（木）より募集します。

1. 取り組みの背景

横浜トリエンナーレ組織委員会は、横浜トリエンナーレの主催者として、2001年の第1回展以来、20年以上にわたり広く市民や子どもたちに最先端の現代アートに触れる機会を提供してきました。第8回展では、事業評価指標の一つとして来場者の鑑賞効果のデータ化に取り組んでおり、このほど横浜市立大学と協定書を締結し、本実証実験を行う運びとなりました。

実験を担当するのは、横浜市が参画する横浜市立大学の産官学連携の研究拠点「Minds1020Lab」です。

「Minds1020Lab」は、生きづらさを感じる若者の心の課題を包括的に研究する新たな学術領域の立ち上げを目的に、精神保健、公衆衛生、基礎医学、データサイエンス、臨床心理学や音楽神経科学等の多様な分野の専門家が産官学の壁を越えて参加し、バーチャル空間に、若者が心の不調を気軽に相談できる「メタケアシティ」の構築をめざしています。実証実験には、「Minds1020Lab」が有する調査・分析手法を活用します。

「Minds1020Lab」のメンバーであり、美と感性に関する心や脳の働きや仕組みの解明を研究する慶應義塾大学教授の川畑秀明は、アートの効用に関する先行研究を下図で整理し、「美術鑑賞や創作表現には、心身にポジティブな影響を及ぼすことが証明されているが、そのメカニズムについては不明な点が多い」と述べています。

実証実験では、展覧会鑑賞直後の鑑賞者にもたらされる心理的效果を検証し、それがどのようなタイミングで生じるかのメカニズムを明らかにすることを目的に、第8回横浜トリエンナーレを実験の場として実施します。

美術鑑賞や美術創作表現が、人の日常生活における心身に様々なポジティブな影響を及ぼすエビデンスが様々に提供されてきているが、それがなぜ生じるかのメカニズムについてはわからないことが多い

④美やアートの効用

美術鑑賞



創作表現



幸福感・ウェルビーイング・精神的健康を増進

（鑑賞）Beauchet et al., 2021, 2022
（創作）Bennington et al., 2026; Botwerf et al., 2014

社会性・コミュニケーションを促進

（鑑賞）Acai et al., 2016; Belver et al., 2017

「認知機能」を増強

（鑑賞）理解を深める Allison et al., 2017

「不安」や「抑うつ」を低減

（鑑賞）Binnie, 2010; Mastandrea, 2019
（創作）Aaron et al., 2011; Duong et al., 2018 Sandmire et al., 2012; Turturro & Drake, 2020, 等

「ストレス」を低減

（鑑賞）Grossi et al., 2019
（創作）Abbott et al., 2013; Tajuddin & Keat, 2022等

2. 実証実験の概要

(1) 特徴と期待される効果

芸術鑑賞が人々の精神的幸福と密接に関連していることは既に広く認識されており、この分野の研究において、芸術作品が観察者にもたらす深い感情体験や創造性、想像力の刺激についての重要性が強調されています。特に、トリエンナーレのような大規模な芸術イベントは、その多様な文化的表現を通じて観察者に新しい視点や強い感情反応を提供する可能性があると考えられますが、このような大規模な芸術イベントの効果に特化した研究はこれまでありません。今回の実証実験により、横浜トリエンナーレが人々の精神的幸福にどのように関わるかが明らかになります。

(2) 手法

- 本実証実験は、事前登録の上、横浜トリエンナーレに来場される方を対象にスマートウォッチGarmin（ガーミン）と鑑賞記録シートにより行います。
- 実験参加者の鑑賞前後の心の状況を、装着するだけで心拍数などの健康情報データが取得できるGarminによって把握、鑑賞シートに作品を見た時間を記録していただきます。記録していただいた鑑賞シートとGarminで取得した心拍データをもとにメンタルの状況変化を把握し、「アート鑑賞が心にもたらす効果（または個々の作品の効果）」を分析します。
- 具体的には、鑑賞前後に取得した心拍データとアンケート、鑑賞記録シートの内容を比較することで、展覧会鑑賞や個々の作品鑑賞による心理的效果を可視化します。

鑑賞前後での変化を計測（トリエンナーレ鑑賞の気分変動効果の検証）

鑑賞前

- ・心拍データ（腕時計型生体センサ）
- ・事前アンケート
- ・鑑賞記録シート

美術館を実証に活用

アート作品A

アート作品B

鑑賞記録シート
作品A 13:05～13:10
作品B 13:10～13:17
.



鑑賞後

- ・心拍データ（腕時計型生体センサ）
- ・事後アンケート
- ・鑑賞記録シート（回収）



今回使用するデバイス
Garmin

3. モニター募集

モニターの皆様には、第8回横浜トリエンナーレの招待券（1名分）をプレゼントします。

実施期間：2024年5月17日（金）～19日（日）のいずれか1日（1時間程度）

実施場所：横浜美術館

募集対象：18歳以上（高校生を除く）～59歳の男女

募集人数：1日最大40名

募集期間：2024年2月29日（木）～人数に達し次第終了

申込： https://research.minds1020lab.yokohama.com/triennale/triennale_recruitment/より申込み

*1Minds1020Lab（マインズ テントウエンティバ）について

Minds1020Labが取り組む「メタケアシティ」の構築は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が公募する令和4年度「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」共創分野本格型に採択されたプロジェクトの1つ。

若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点を構築するプロジェクトの拠点で、メンバーを活用した若者のこころの支援に向けた開発を産学官共創により進めている。

Webサイト <https://minds1020lab.yokohama/>



*2横浜トリエンナーレについて

横浜トリエンナーレは、2001年の第1回展から20年以上に渡り実施している日本を代表する現代アートの国際展です。第8回展は、総勢94組（2月29日現在）の様々な国・地域のアーティストが参加します。

会期：2024年3月15日（金）～6月9日（日）

開場日数：78日間

【プレスリリースお問い合わせ】

▶横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当（石川、里見、頼政）

E-MAIL： press@yokohamatriennale.jp TEL 045-663-7232（平日10:00～18:00）

広報用画像貸出等プレス向けサイト： <https://www.yokohamatriennale.jp/press/>

▶横浜市立大学

Minds1020Labに関する窓口：Minds1020Lab 広報担当（堀井） E-MAIL： coinext@yokohama-cu.ac.jp

その他取材対応に関する窓口：広報課（上村） Tel：045-787-2414 E-MAIL： koho@yokohama-cu.ac.jp